

## 母子健康手帳の改訂に関する研究

### 報告書

母子健康手帳の改訂に関する委員会  
委員長 平山宗宏

#### 要約

平成4年4月を期して新しい母子健康手帳の交付を実施することを目的として、母子健康手帳の改訂案を作成した。改訂の要点は次の通りである。

- 1) 手帳の大きさは現行のままとする。
- 2) 乳幼児発育値の曲線図を平成2年に実施された調査による値に改訂し、3、10、90、97パーセントイルのそれぞれを示す。また、新たに頭囲のパーセントイル曲線を示すこととした。
- 3) 国際化に対応するため、予防接種の記録を英語併記とし、また今までにかかった主な病気の記録を、感染症の例を示すとともにこれも英語併記とした。
- 4) 厚生省令には、母親自身及び、医療・保健の担当者が記入する部分のみを示し、保健・育児に関する解説・情報はそのうしろに整理して載せることとした。省令に定める部分は全国統一とし、それ以外の部分は市町村等が地域の特性を考慮して自治体の裁量に委ねることとするが、本委員会として作成した案を参考として示すことにする。また、本報告に示す例示をもとに、モデル手帳の作成も試みることにしたい。
- 5) 内容については、全国的に関係者の意見を求め、可能な限り取り入れて、現在のニーズに合わせる努力をした。しかし、現行方式（親と医療・保健関係者が記入する欄を組み合わせた形式）が定着しており、大幅な改編を望む声は少なかったので、形式は現行を踏襲しつつ改訂を図った。なお、モデル手帳はイラストなどもいれて、かわいい手帳とすること、目的の頁を見つけやすい工夫をすること等を心がけたい。

#### 研究担当及び協力組織

母子健康手帳の改訂に関する研究班（委員会）  
を組織して研究に当たった。また多くの関係者の協力を得て改訂作業を実施した。

研究協力：厚生省心身障害研究「幼児健診の充実に  
関する研究研究班」  
日本医師会乳幼児保健検討委員会

## 母子健康手帳の改訂に関する委員会

### 委員名簿 (◎委員長、○副委員長)

- 青木 継稔 (東邦大学大橋病院教授)  
○青山キヨミ (東京都衛生局母子保健課長)  
天野 曄 (日本小児科医会理事)  
飯村 富子 (川崎市幸区区民部長)  
岡田昭五郎 (東京医科歯科大学教授)  
笹井 康典 (大阪府保健予防課)  
高石 昌弘 (国立公衆衛生院院長)  
田中 甲子 (「地域保健」編集長)  
◎平山 宗宏 (日本総合愛育研究所所長)  
本多 洋 (三井記念病院産婦人科部長)  
松谷有希雄 (石川県厚生部長)  
矢野 亨 (日本医師会常任理事)

### 同上：専門委員名簿

- 飯塚 貞男 (東京都立広尾産婦人科部長)  
衛藤 隆 (国立公衆衛生院室長)  
大倉 慶子 (杉並区杉並南保健所課長)  
加藤 則子 (国立公衆衛生院乳室長)  
川井 尚 (愛育相談所所長)  
熊瀬川光子 (小金井保健所  
国分寺保健相談所主査)  
楠原ひろ子 (電通EYE)  
澤登 信子 (ライフカルチャーセンター)  
杉下 知子 (東大医学部保健学科講師)  
高島 順子 (日本労働組合総連合女性局  
次長)  
松本八重子 (都立医療技術短期大学教授)  
水野 清子 (日本総合愛育研究所部長)  
山本 恭子 (電通EYE)

### [ I ] はじめに

母子健康手帳の改訂が企図された理由は、主として次の2点であった。

1) 10年ごとに行なわれる厚生省の乳幼児発育調査が1990年に実施され、新しい発育値が本年10月に発表されるので(同調査委員会委員長：高石昌弘)、母子健康手帳の中の発育曲線も改訂しなければならない。

2) 母子保健法の一部改正により、1992年4月から母子健康手帳の交付は市町村の仕事となる。この機会に母子健康手帳にもその地域のニーズに合わせた内容を盛り込めるようにしたい。しかし一方では、記入の際の便宜上、手帳の形式や内容は全国共通にして欲しいとの要求もあるので、この間の調整を要する。また育児に不安を持つ親が増加している、仕事を持つ母親が増加している、という現在の状況に、可能な限り対応したい。

このような母子健康手帳改訂の目的で、厚生省母子衛生課は「高齢化社会を迎えるに当たっての母子保健事業策定に関する研究」の中で早急に検討することとし、本委員会が組織された。

### [ II ] 検討方法及び経過

上述した理由で母子健康手帳の改訂を企図して組織された本委員会は、次のごとく委員会を開催して検討を開始した。

平成3年5月16日：第1回委員会

厚生省母子衛生課長より主旨及びスケジュールにつき、挨拶と説明が行なわれ、委員の紹介の後、ユタ州の手帳など外国のカラフルなものの回覧、わが国の手帳の内外で

の評価その他資料などを参考にしながら自由討議を行なった。

平成3年6月13日：第1回委員・専門委員  
合同会議

手帳の内容、構成等について意見の交換が行なわれた。次回までに各方面からの意見、要望を収集し、さらに検討することとした。

平成3年7月31日：第2回委員・専門委員  
合同会議

「厚生省より各都道府県、政令市、指定都市、特別区に問い合わせた母子健康手帳に関する意見メモ」、「小児保健協会評議員よりの意見のまとめ」、「東京小児科医会・公衆衛生委員会」、「日本歯科医師会」、「日本医師会乳幼児委員会」、「助産婦関係者」よりの各意見メモ、「日本マーケティング女性会議よりの母子健康手帳のリニューアルアイデア案」、等が参考資料として提出され、委員による討議が行なわれた。それらの結果をふまえて、8月中に母性、小児、歯科の各分野ごとに指名したワーキンググループが具体案を作成し、9月早々にその連絡会を開催してとりまとめ、合同会議に提出することとした。

平成3年9月9日：ワーキンググループ会議  
母性、小児、歯科、それに栄養の各分野から持ち寄った改訂案を整理し、調整が行なわれた。また厚生省母子衛生課より改訂上の要望が示され、これにもとづいた合同会議提出用改訂案は、委員長にとりまとめが一任された。

平成3年9月20日：第3回委員・専門委員

合同会議

厚生省の方針、ワーキンググループの各要望案をとりまとめた委員長試案が提出され、討議された。そして大筋の合意が得られたので、以後は厚生省内の検討の結果を待って、必要な小修正を加えた上で本委員会の報告書として最終改訂案を提出することが合意された。最終案のとりまとめに当たっての考え方、改訂の要点及びその理由、参考とされた各方面からの意見の概要等については、次項以下に述べ、また資料として添付する。

### 〔Ⅲ〕主な改正点

平成4年4月を期して新しい母子健康手帳の交付を実施する目的で、母子健康手帳の改訂案を作成した。改訂の要点は次の通りである。

- 1) 手帳の大きさは現行のままとする。スペースに余裕をもたせ、情報量を増す、等のために手帳のサイズを一回り大きくする（B6サイズにする）ことを検討したが、関係者へのアンケート結果や意見の多くが現行A6サイズを支持しているため、大きさの変更は見送った。また、使用に際し机上に広げておけることの要望が出されていることから、現行の糸綴じのできる厚さにとどめることとした。
- 2) 乳幼児発育値の曲線図を平成2年に実施された調査による値に改訂し、3、10、90、97パーセントイルのそれぞれを示すこととした。現行の10、90パーセントイルではこれをはみ出る場合、親に不要な不安を与えるおそれがあるとの意見を入れたものである。

なお、要望が多かった頭囲のパーセンタイル曲線も掲載することとした。

- 3) 厚生省令には、母親自身及び、医療・保健の担当者が記入する部分のみを示し、保健・育児に関する解説・情報はそのうしろに整理し一括して載せることとした。省令に定める部分は全国统一とし、それ以外の部分は市町村等が地域の特性を考慮して作成してよいよう、自由裁量の枠を広くするためである。しかし市町村等が早急にその案を作成するのは困難であるので、本委員会は研究報告書に参考としての案を示すことにした。なお、省令で指定する部分についても、ページ数や内容が変わらない限り、デザイン等に独自の工夫をこらしても差し支えないものと考えたい。
- 4) 母子健康手帳は、母親自らのもの、育児の記録という建前は大切にしたい。
- 5) 内容については、全国的に関係者の意見を求め、可能な限り取り入れて、現在のニーズに合わせる努力をした。また表現の上で誤解を受けやすい部分なども改訂した。とくに保護者の記録部分における質問項目を整理し、紛らわしい質問を修正した。しかし、現行方式、すなわち親に対するアンケートと医療・保健関係者が記入する欄を組み合わせた形式が定着しており、大幅な改編を望む声は少なかったため、現行形式を踏襲しつつ改訂を図った。なお、モデル手帳はイラストなどもいれて、かわいい手帳とすること、目的の頁を見つけやすい工夫をすること等を心がけたい。
- 6) 保護者による歯の記入欄を加え、歯の健診結果の記入欄を修正した。

#### [4] 母子健康手帳改訂案

以上の要点を盛り込んだ母子健康手帳改訂版を、別添1（本報告書巻末、裏表紙ポケット）に示す。1頁から46頁までは厚生省令で示されるべき部分である。47頁以降は妊産婦の健康管理に当り必要な情報、乳幼児の養育に当り必要な情報、予防接種に関する情報、母子保健に関する制度の概要、母子健康手帳を使用するに当たっての留意事項等の記載例を示した。

また前述の通り、本委員会が改訂作業を行なうに当たって重要な参考とした多くの意見の要約を別添2以下に添付する。意見を寄せられた母子保健関係者各位に深甚な謝意を表する。

#### [5] おわりに

母子健康手帳の改訂を要した経緯、本委員会で検討し作成した改訂案の意図・目的、主な改正点につき概要を報告した。改訂された箇所それぞれの改訂理由については、多岐にわたるので別途報告する。

なお、別添1の改訂案の47頁以降はあくまで各種情報の記載例であるので、各市町村は地域における独自の情報を加えつつ、よりよい母子健康手帳の作成、配布に努めていただきたいことを、重ねて付言する。

また、母子健康手帳の配布に際しては、保健婦、助産婦が妊婦に面接して保健指導、助言の機会として欲しいとの要望が、本委員会ですよく出されていたことも付言する。

## 別添2 母子健康手帳に関する要望事項

### I. 日本小児保健協会評議員、同都内医師会員等より寄せられた意見の一覧

◎多かった意見

- ◎厚くならないように。開いて置けるような製本を。
- 票の綴じ込みは反対。それは別冊にして本体は薄く。
- ◎使い慣れているのであまり大きな変更は望ましくない。
- 生涯手帳を念頭に。各時期の健康手帳の大きさを一定にしてファイルしたら。
- ◎あまり欲張らずに簡略に。
- 最小限必要な具体的数値、項目にせよ。育児の評価や価値観に関しては避ける。
- チェックする方式でなく育児援助・自己記録の方向に。
- 希望者に申し出があれば配る程度でよいのでは。
- 親の愛情が豊かなら育児技術は未熟でも子は育つ、という考えを。
- 子どもとの関わりを豊かにし、楽しい生活を意識した指導内容を工夫せよ。
- ◎医師等が記入するものでなく、親が自由に書き込み完成させるものとのPRを。
- 医療用のニュアンスが強い。保護者の記録の性格をもっと出せ。
- 手帳は主治医の貴重な情報源。育児日記にするのは反対。
- ◎保護者の記入するスペースを増やせ。
- ◎保護者の記入はあまり行なわれていないので、現行程度で十分。
- 発育のみをチェックする時代は終わった。成人病予防などを入れよ。
- 3歳以降に成人病予防の食事指導の指針を。
- 出生後は小児科医の健康管理を受けるべきことをPRして欲しい。
- ◎手帳の価値と大切さの教育を。／ 活用の仕方の教育を。／ 記入法の手引を。
- ◎もっとユーザーフレンドリーに。カット、育児情報も増して、夢のある手帳に。
- ◎手帳保存の必要性を強調せよ。
- カバー付きで診察券等を挟めるポケットが欲しい。
- 子どもの写真の貼れるスペースが欲しい。
- ◎見たい頁が分かりやすいように色紙、切れ込み、見出しの印などを入れる。
- 父の頁を設けて欲しい。
- ワンポイントアドバイスを増やす。
- ◎プライバシーを守ることが必要。
- プライバシーを考えすぎると保護者が自分で持っている手帳の意味がなくなる。
- ◎子どもの記録を取り外せるようにするなら、発育記録と予防接種のみでよい。
- ◎取り外す方式は散逸するおそれあり。

- 見られたくない部分は保護者がホチキスで止めてしまえばよい。
- 手帳が次の子育てに科学的に役立つようなフィードバックシステムを考えよ。
- 第2子以降の子のことも考慮して。
- 新生児期と1か月の間に、血液型、先天代謝異常、K2シロップ等の添付頁を。
- いつから集団生活に入ったかの記録が欲しい。
- 保育所での記録を書き込めるスペースが欲しい。
- ◎各年齢で事故予防のポイントを。
- 救急処置をイラスト入りで解説する頁を。
- 1歳と5歳にもっと重点をおいた方がよい。
- ◎3歳児に検尿、視力、聴力の記入欄を。

- ◎アンケート部分は発育の指標と疾病発見のための部分を区別し、解説もつけよ。
- ◎発達に関するQはできるようになった月年齢を記入する方式がよい。
- アンケートで、はい、と いいえが入り交じっている。整理を。
- ◎健診の記録をもっと詳しく。／小児科医でないと書きにくい位がよい。
- ◎医師の記入欄はあまり詳しい必要はない。

- 体重身長記録は一括して別の発育曲線の前あたりに一覧表にするとよい。
- ◎発育曲線は網目印刷のトーンを薄くして欲しい。
- ◎頭囲の曲線を入れて欲しい。
- 胸囲は利用されない。不要。
- 肥満、低身長わかる工夫を。カウプ指数の記入欄をつくったらどうか。
- 運動発達（通過率）をもっとわかりやすく。
- ◎体重はグラム単位で。コンマは不要。あると書きにくい。

- 診療時に病名や病院名を記入できるスペースを。
- 健診で医師は責任を持って署名を。病名を書くときは特に。
- ◎署名欄は、医師、保健婦、心理、栄養など多くの担当者に関わるので工夫を。
- 障害児の場合に利用できる予備の白紙を準備し、経過を記入できるように。
- 障害年金等の手続きに必要なので、診断名、治療内容、医師名等の記入頁を。

- 離乳、断乳の開始、完了は不要。親が余分に悩む。
- 1歳の断乳は、母乳を与えているか、いないか、という表現に。
- ◎栄養状態、良、ふつう、不良、はよくない。肥満傾向、普通、やせ傾向、など。
- 離乳食指導の内容は変えるべきだ。

- 3 - 4 月で離乳食開始を聞くのは早すぎる。
- ◎ 予防接種の項には英文の併記を。
- ◎ 予防接種にはメーカー、ロット名の記入欄を。
- ◎ 日本脳炎の記入欄を。
- ◎ 予防接種の部分は取り外せるように／別紙にして学校でも記入するように。
- ◎ 予防接種を受けるべき時期などの解説をもっとくわしく。
- ◎ 予防接種の頁は判や接種票のはりつけで見にくいことが多い。きちんと記入を。
- ◎ 疾患の記録は感染症の治癒証明をかねて、予防接種との関連を明確に。
  
- 歯科記録部分が狭すぎる。歯式でなく歯型を。
- 歯科の部分は歯科医の記録の性格強い。指導のメモが不親切。
- 弗素塗布の記録を。
- 6 月の歯の本数はほとんどが 0 なので不要。
  
- 保健所、かかりつけ医師、救急病院の電話番号、保険証番号等の記入頁を。
- ◎ 手帳交付の時に保健指導を義務づけよ。

## II. 神奈川県医師会より寄せられた要望事項

- 表紙の紙質を長期保存に耐えうるものにせよ。
- サイズは B 6 に。別冊は避ける。
- ◎ 妊婦健診項目について：
  - 妊娠中期に血小板の検査を加えたい。
  - 超音波診断の追加
  - 心電図のルーチン化
  - 母親学級の記録のページを妊娠中の経過の次のページに移す。
  - 高齢出産に対応できる検査上の配慮を。
- ◎ 指導内容および乳幼児健診について：
  - 頭囲の曲線を追加する。
  - 簡単な子どもの発育表を加える。
  - 保護者の記録欄で、運動神経系の発達についての設問を配慮する。
  - 身体発育曲線の印刷を薄くし、記入しやすくする。
  - 1 歳 6 か月健診の測定項目に「頭囲」「胸囲」を追加する。
  - 栄養状態欄の「良・普通・不良」を「肥満傾向・普通・やせ傾向」にする。

◎予防接種の記載欄について：

記載欄が狭い。

MMRのことを配慮する。

「各種予防接種のあらまし」を別表で綴じ込む。

◎その他

中学生までを通しての健康記録として役立てたい。

◎市町村が母子健康手帳の内容を一部変更・追加するときは、当該地域医師会の了解を得ること。

### Ⅲ. 大阪小児科医会よりの意見

○医師等の記載欄の指導事項欄が狭い。

○頭囲の発育曲線をいれたい。

○発育曲線、予防接種記録のページがすぐわかるように、赤線をいれるなど配慮してほしい。

○予防接種の次ページを今までにかかった主な病気並びに予備欄のページにしてほしい。

○栄養状態記載欄の表現を変更する。

○1歳6か月から歯磨きをしているかの質問を入れる。

○3歳健診に検尿の欄を加える。

○表現を若い親に分かりやすい語句で。

○予防接種の説明で「社会を防衛するために」は要再検討。個人防衛の時代だ。

### Ⅳ. 宮城県小児保健協会運営委員会からの意見

○大きさは現行の大きさ、厚さでよい。

○全国统一の部分と自治体独自の部分を分けたらどうか。別冊を利用するのもよい。

○親が十分利用するように、周知徹底する努力をしてほしい。

○学校保健につなげるとすれば、汚れにくく、こわれにくい工夫を。診察券などはさめるカバーをつけたい。

○今までにかかった主な病気はプライバシーに関係のない感染症を主に。

○身長・体重の記入欄にコンマは不必要。記入しにくい。

その他多くの意見が寄せられたが重複する内容なので省略する。

母子健康手帳に関するアンケート集計結果

小児保健境界全国評議員・東京都内小児科医、研究グループの保健所等より  
寄せられたアンケート

調査数		203
手帳の大きさ	現行 (A6)	133 (65.5%)
	B6	60 (29.6%)
	A5	7 (3.4%)
子の記録の一部を 取り外せる方式に	賛成	127 (62.6%)
	現行	70 (34.5%)
母親用自由記載の スペース広くとる	賛成	110 (57.0%)
	現行	62 (32.1%)
アンケート部分の 方針改訂の要否	現行でよい	130 (64.0%)
	他の意見	33 (16.3%)
健診の記録部分の 改訂の要否	現行でよい	101 (49.8%)
	詳しく	35 (17.2%)
	簡単に	2 (1.0%)
	他の意見	34 (16.7%)

注：意見無しの数字は表から省略した。

## 現行母子健康手帳に関する主な意見

都道府県・政令市・指定都市・特別区

厚生省母子衛生課を通じ、母子保健行政に携わる各自治体の担当者に現行の母子健康手帳についての意見をアンケート方式で募った。その結果は以下の通りであった。

回収率： 47.1%

23 都道府県 (48.9%)、6 指定都市 (54.5%)、7 政令市 (33.3%)、  
12 特別区 (52.2%)

質問項目：

1. 装丁について
2. サイズについて
3. 指導内容について
4. 受診票等の添付について
5. その他

調査結果

以下の通りであった。括弧内は要望のあった自治体数である。

### 1. 装丁について

#### (1) 手帳の材質

- 表紙をハードカバーにするなど長期間の使用に耐える丈夫なものにする。 (8)
- ビニール等によるカバーを付ける。 (7)
- カバーにポケットを付ける。 (7)

#### (2) 色調、デザイン

- 明るくかわいらしいものにする。 (19)
- イラストやカラーページを導入する。 (12)

#### (3) 見出し等、外見の構成

- 全体を、母親、子ども、予防接種と項目毎に紙の色を分けて区分する。 (6)
- 項目ごとに見出しをつける。 (7)

## 2. サイズについて

従来通りでよい (A 6)	(24) 52.1%
B 6 版にする	(19) 39.6%
A 5 版にする	(1) 2.1%

## 3. 指導内容について

### (1) 全体の構成

- イラストを入れたり、活字を工夫するなど、読みやすく親しみやすいものとする。(9)
- 保健指導上の内容はまとめて記載する。(3)

### (2) ページの新設

- 感染症等の既往歴の記入欄。(5)
- 先天性代謝異常等検査の項目。(7)
- 節目の健診以外の歯科健診時にも記入できる欄。(6)
- 歯科健診のみの欄。(8)

### (3) 項目の新設

- 指導資料を増やす。(離乳食、アレルギー、月齢に応じた親の関わり方、事故防止、応急手当等)(2)
- 乳幼児の事故防止について。(2)
- 表紙に子どもの出生年月日を入れる欄を追加する。(8)
- 酒、たばこ、アレルギー、歯の衛生について入れる。(5)
- 妊娠中の栄養の取り方。6つの基礎食品に絵を入れ、カラーにする。(4)
- 出産の状態に「Apgar Score 点」を入れる。(8)

### (4) 健康診査について

- 1～6歳児欄に生歯数、う歯数記入欄。(7)
- カウプ指数を記入できる欄。(8)
- 1歳6か月以降の幼児健診にも、頭囲・胸囲を記載する欄。(12)
- 視聴覚検査結果を記入する欄。(16)
- 栄養状態の「良・普通・不良」の表現を変える。(4)
- 指導事項欄を広くする。(7)
- 歯の状態のa, b, cという表現を改善する。(13)

### (5) 保護者の記録欄について

- 「はい・いいえ」で答える他に「何か月でできるようになったか」を記入する。(40)

(6) 乳幼児身体発育曲線について

- 頭囲曲線、胸囲曲線を加える。 (10)
- パーセンタイル値について、97及び3パーセンタイルも加えるべきである。 (5)
- パーセンタイルの説明は、保護者に不安を感じさせないように検討すべきである。 (2)

(7) 予防接種について

- 接種忘れを防ぐため各予防接種ごとに法定年齢を付記する。 (4)
- 英語表記を併記する。 (2)
- 予防接種の時期と接種間隔を一覧表にして入れる。 (11)
- 日本脳炎の項目を起こす。 (9)

(8) 主な母子医療の公費負担制度について

- 国の制度に加え、都道府県及び市町村独自のものを記載できるように。 (2)

4. 受診票等の添付について

- 新生児訪問を効果的に実施するための市町村連絡のハガキ（相談内容、訪問希望等を記入したもの）を添付する。 (5)
- 乳児一般、妊婦一般健診、妊産婦HBs抗原検査等の受診票を添付する。 (6)
- 予防接種問診票を市町村の判断により添付できるようにする。 (10)

5. その他

- 外国人用の手帳を作成する。 (4)
- 自治体レベルでの夜間・救急・消防・テレホンセンター・保健所の電話番号等の情報を載せる。 (5)
- 超音波の写真や検査データを記入する欄を増やす。 (2)

別添4

母子健康手帳のリニューアルの方向性(概要)

日本マーケター女性会議

1 はじめに

母子健康手帳のリニューアルの検討に向けてアンケート調査及びインタビューを実施した。

2 母子健康手帳に関するアンケート

<対象>母子健康手帳利用者100人。年齢構成は以下の通り。

年 齢	人 数	年 齢	人 数
20～24歳	4 人	35～39歳	22 人
25～29歳	16 人	40～44歳	12 人
30～34歳	41 人	45歳以上	5 人

<対象エリア>東京・千葉・神奈川・埼玉

<実施期間>平成3年6月17～25日

<アンケートの形式>設問に対する自由記載

<質問項目と主な意見等>

(1) あなたが母子健康手帳を初めて手にした時、どんな気持ちがありましたか。

嬉しかった 27人 母なる実感 16人 喜び 10人  
母となる責任 6人 不安 4人

(2) ご主人は母子健康手帳を見たことがありますか。その時の反応(感想)はどのようなものでしたか。

見たことがある 73人  
特に反応なし 28人 真剣に受け止め興味深く見た 5人  
見たことはない 26人  
見せなかった 1人

(3) 母子健康手帳の注意事項など、読んで確認しましたか。どんな点が参考になりましたか。

確認した 83人

妊娠中の栄養の取り方	13人	子供の成長発育関係	10人
予防接種の記録	6人	新生児の説明	4人

(4) 母子健康手帳の中で参考にならなかった点や、不要だと思う点は、どんな点ですか。

特になし	38人	すべて必要	8人
データが古い	6人	歯のページ	5人

(5) 母子健康手帳の他に参考とした本や資料はどんなものですか。

一般育児書	69人	雑誌	34人
病院・保健所からの配布本	15人		

(6) 母子健康手帳で特に役立つ点はどんなことですか。あなたが最も良く利用したのはどんなページですか。

予防接種の記録	30人	保護者の記録(成長記録)	23人
健康診断の記録	18人	妊娠中の経過	18人
身体発育曲線	12人	妊娠中の体重変化	7人

(7) こんなページがあればもっと助かるのに、と思われることがありますか。それはどんなことですか。

予防接種の情報	10人	子供の病気と対処方法	7人
離乳食の紹介	5人	救急病院等	4人

(8) 健診以外で母子健康手帳をどんなふうに使っていますか。エピソード等がありましたらお聞かせ下さい。

予防接種の時	7人	上の子との成長の比較	7人
--------	----	------------	----

(9) 母子健康手帳は今現在どんな形で、どこに保管していますか。また、どんな時に使いますか。

保管場所：	引き出しの中	47人	
使用場面：	予防接種の時	22人	健康診査の時 15人
	書類作成の際	11人	

### 3 母子健康手帳に関するインタビュー

〈対象〉 各ライフステージの女性21人。年齢構成は以下の通り。

未婚・未出産	26歳 2人、31歳 1人
既婚・未出産	27歳、28歳、32歳
妊娠中	27歳、29歳、31歳
子供が1歳未満	30歳 2人、32歳
子供が1歳以上3歳未満	31歳、34歳、35歳
子供が3歳以上6歳未満	31歳、33歳、40歳
子供が6歳以上	37歳、38歳 2人

〈実施期間〉 平成3年6月24日～30日

〈対象エリア〉 東京・千葉・神奈川・埼玉

〈インタビュー項目〉 母子健康手帳の持つ機能別に自由な意見・感想を述べてもらった。

**機能1：妊娠・出産子育て手引書として**

一般の育児書を併用したという人が多かった。

妊娠中や1歳未満の子供がいる女性では「ポイントは押さえてあるので、この程度で良い」という意見が多かった。

**機能2：妊娠中の記録として**

妊娠カレンダーがあるとよい、産後の調子の悪い人にとっては記録のページが少ないという意見が妊娠中の女性から出た。

**機能3：子供の成長の記録として**

「成長の目安となる」という感想が大半を占めたが、「記入するスペースが少なく利用できない」という意見が一部あった。

#### 機能4：育児日誌として

自分で別に用意すれば手帳に組み込む必要はないという意見がほとんどであった。

#### 機能5：子供の健康の記録

予防接種に関する詳しい情報が欲しいという意見が多かった。  
病気についての情報も要望されていた。

※その他、現在の手帳ではカバーできない機能だが、妊娠前に性や妊娠についての知識を手帳から得たいという要望もあった。

#### 4 まとめ

2、3の結果をまとめると次のとおり集約されると考えられる。

##### (1) 母子健康手帳に対する母親の意識変化

母親にとっての母子健康手帳の存在感は子供の成長の過程で変化するようである。妊婦は、初めて手帳を手にした時、喜び、母としての責任義務感、不安を感じる。妊娠中は手引書としての、またヘルスチェックとしての役割を果たしており、83%の妊婦が注意事項等を読んで確認する。出産後では発育曲線、保護者の記録、予防接種、健康診断の記録が役立っているようである。育児情報に関しては一般書、副読本の方を良く利用したという意見が多かった。子供が入学後は、入園、入学時の書類の記入時に使用したり、予防接種時の参考に使っている。その後、母子健康手帳は子育ての大切な記念として、各家庭の引き出しの中に保管されることとなる。

##### (2) 母子健康手帳に期待するもの

###### (知識・情報)

- ・基本的な事項についての分かりやすい手引書
- ・妊婦の健康管理に関すること
- ・子供の発育・発達に関すること
- ・子供の病気に関すること
- ・保健医療サービス機関の情報
- ・予防接種、健康診査などの一覧（育児カレンダー）
- ・産休についての知識 など

###### (記録)

- ・妊娠中の記録
- ・子供の発育・発達の記録

- ・子供の病気の記録、体質などに関する医師の記入欄 など

### (3) 母子健康手帳に期待しないもの

(知識・情報)

- ・専門的な情報（これについては専門書・育児書等を参考とする）

(記録)

- ・育児日誌（これについては自分で作る）

## 5 母子健康手帳リニューアルの方向性と試案

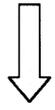
### (1) リニューアルの方向性

母子健康手帳は日常的に子育ての重責を一人で担うことになる母親に対しての公的サービスであり、心のよりどころである。情報・知識と記録の部分にわけ、更に分冊にし、それぞれの一層の内容の充実が図られるべきである。そしてそれらは、子育てのライフステージに合わせて構成されなければならない。更に、働く女性が増加して行く中、彼女たちの生活の変化にも対応していなければならない。将来的には、母性と同様父性の啓蒙、カルテとしての機能の充実（十分プライバシーの保護に注意しつつ）が望まれる。

### (2) 試案

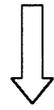
調査結果から母子健康手帳を分冊にして、次のような構成にすることが適当と考えられた。

- ㊸ 母子健康手帳の使い方
- ㊹ 基本的な子育ての情報
- ㊺ 子育てカレンダー（妊娠期間も含む）
- ㊻ 記録（現状の母子健康手帳の機能）
- ㊼ カルテ
- ㊽ 地域お助け情報（ハローページ）
- ㊾ 総合インデックス



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 要約

平成4年4月を期して新しい母子健康手帳の交付を実施することを目的として、母子健康手帳の改訂案を作成した。改訂の要点は次の通りである。

- 1)手帳の大きさは現行のままとする。
- 2)乳幼児発育値の曲線図を平成2年に実施された調査による値に改訂し、3、10、90、97パーセントイルのそれぞれを示す。また、新たに頭囲のパーセントイル曲線を示すこととした。
- 3)国際化に対応するため、予防接種の記録を英語併記とし、また今までにがかった主な病気の記録を、感染症の例を示すとともにこれも英語併記とした。
- 4)厚生省令には、母親自身及び、医療・保健の担当者が記入する部分のみを示し、保健・育児に関する解説・情報はそのうしろに整理して載せることとした。省令に定める部分は全国统一とし、それ以外の部分は市町村等が地域の特性を考慮して自治体の裁量に委ねることとするが、本委員会として作成した案を参考として示すことにする。また、本報告に示す例示をもとに、モデル手帳の作成も試みることにしたい。
- 5)内容については、全国的に関係者の意見を求め、可能な限り取り入れて、現在のニーズに合わせる努力をした。しかし、現行方式(親と医療・保健関係者が記入する欄を組み合わせた形式)が定着しており、大幅な改編を望む声は少なかったため、形式は現行を踏襲しつつ改訂を図った。なお、モデル手帳はイラストなどもいれて、かわいい手帳とすること、目的の頁を見つけやすい工夫をすること等を心がけたい。